グローバルな活躍のすすめ

都立国際高校　キャリアガイダンス
2014年6月7日
柏木　茂雄
慶應義塾大学　大学院　商学研究科　教授

自分史（1）ー　学生時代

- 学生時代は一貫して私立校（慶應義塾）
- 楽しく、居心地良かったが、狭い社会

- 大学在学中、米国へ短期交換留学を経験
- 違った世界、広い世界を経験

- 「公」 のために働きたい
- 将来、後悔しないため、今、全力を尽くす

- 公務員試験合格後、大蔵省（当時）入省

自分史（2）ー 財務省時代

- 大蔵省（現　財務省）で幅広い仕事を経験
- 財政、金融、国際金融

- 一企業、一個人のためでなく、
- 広く、国のために働く楽しさ、喜び

- 米国の大学院に2年間留学

- 加えて、合計12年間を国際機関で過ごす
  - 国際通貨基金（IMF）に延べ3回10年間、
  - アジア開発銀行に2年間。

自分史（3）ー 国際機関職員

- グローバルな見方、仕事を経験
- 世界の「公」のために働く
- 世界中から集まってくる優秀で素晴らしい人たち

自分史（4）ー 大学教授

- 自分でも予想もしなかった展開

自分の実践的な経験を伝える

理論だけでなく、現実世界を

- 「リスクと機会」 のバランス

グローバルな時代とは何か？

国境を超えた動きが活発化

- もの、サービス、人、カネ、情報

他方、国境を越えられないもの

- 規制、行政、国家主権

経済のグローバル化が進めば、

国境を超えた競争／協調

国境を超えた利害調整
／ルール作り

グローバルな観点から
「公」を考える必要あり

国際機関の重要性が高まる

例えば、国際通貨基金（IMF）： 加盟国数　188カ国、
スタッフ： 160カ国から　約2600名
（出典） IMFウェブサイト

グローバルな職場では、

国旗・国歌　をどこまで意識するか？

オリンピック

国旗、国歌を意識しない働き方

サッカー　本田選手

「グローバル社会」＝「海外」か？

- 日本国内でも「グローバル」な活躍は可能かつ必要
- 外国人の上司、同僚、部下、取引先と如何にうまく仕事ができるかが課題
- 「内なるグローバル化」が必要となる

グローバル社会では何が必要か？

お互いの違いを認識し、

違いを尊重し合い、

多様性を楽しむことにより、

本当の自分を理解できる

「自分を知る」ってどういうこと？

- 「違い」 を嫌がらず、
- 異なる意見と向き合ってみる。
- 例えば、多様な友人を作る、本を読む、海外に行って冒険をしてみる。
- 多様性を通して、自分をより良く知ってみよう

「自分」を伝える

- 自分を知り、自分の考えをまとめ、それを伝える訓練をしてみる
- 伝えるべきものがないのに、語学力だけを磨くのは意味がない
- 自分の考え、経験を他者、第三者に分かりやすく伝える

Challenge !!

You Can Do It !!

Good Luck !!